

関節リウマチの関節外症状について

加納内科
リウマチ科・糖尿病内科クリニック

加納 克徳

リウマチ療養講演会
平成28年10月16日

①眼(ドライアイ、強膜炎)

眼球を包む一番外側の強膜が炎症を起し、結膜が充血、**痛み**や視力障害を伴う

→ステロイド点眼など

②口(口内炎、口腔内乾燥)

シェーグレン症候群(膠原病)を合併すると涙腺や唾液腺に炎症が起き、眼や口が渇く。角膜炎や虫歯になりやすい

→乾燥に対する、内服薬などがある。

③心血管系(血管炎、心膜炎、動脈硬化)

●血管炎:発熱、皮膚潰瘍、神経痛、臓器障害などを合併。

重いタイプは「悪性関節リウマチ」

●心膜炎:心筋炎、心膜炎になると、動悸、息切れ、胸痛や心臓のまわりに水が溜まる

●動脈硬化:動脈硬化も進展しやすい

④呼吸器

リウマチに伴う肺疾患

- ・胸膜炎 肺に水が溜まり発熱、胸痛、咳
- ・間質性肺炎 咳・息切れなどの症状
(進行すると肺線維症)
- ・細気管支炎、気管支拡張症、器質化肺炎

治療に伴う(関連した)肺疾患

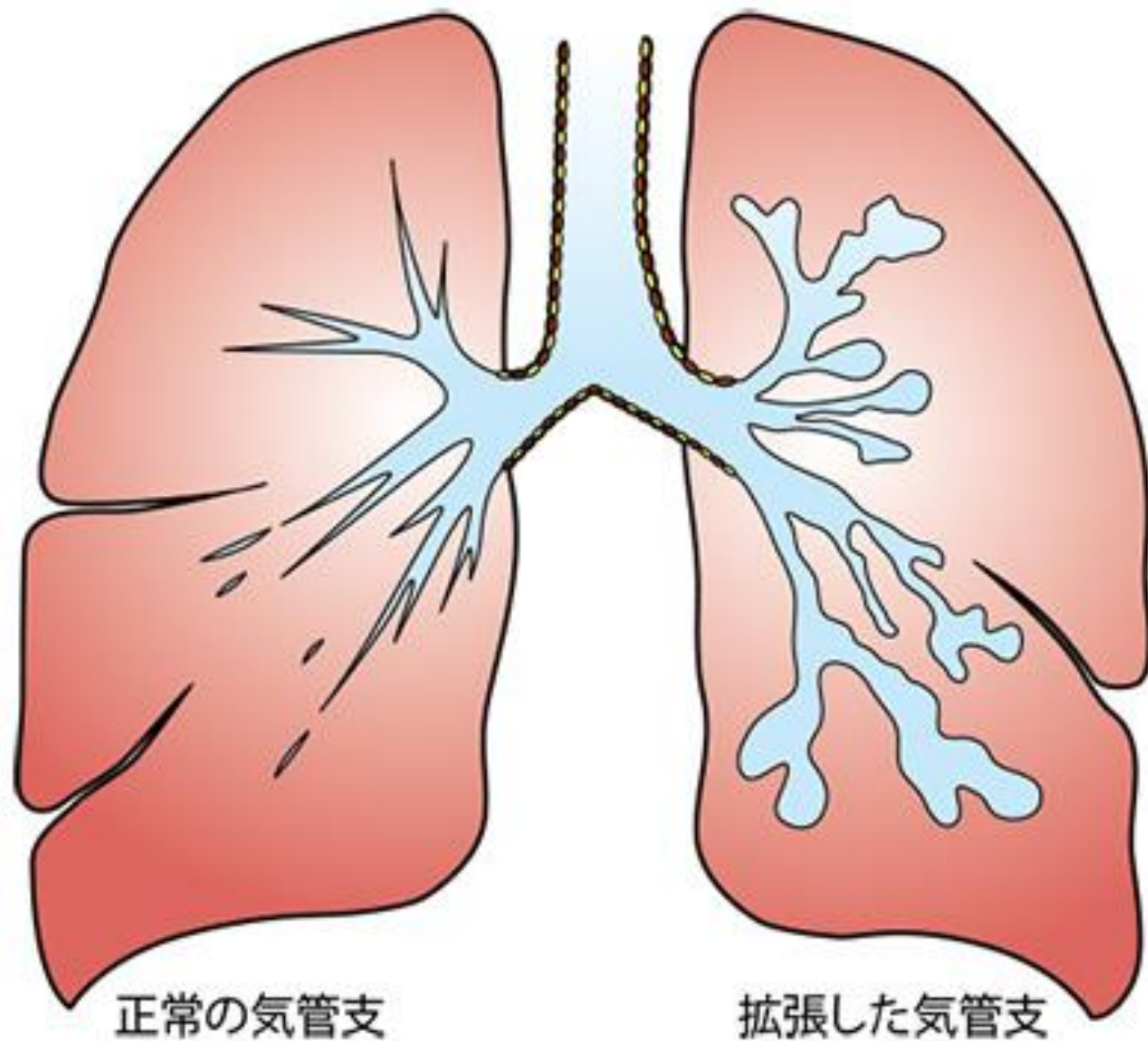
- ・結核(レントゲン・ツ反・T-スポット、イソニアジド内服)
- ・MAC症(非結核性抗酸菌症)
- ・ニューモシスチス肺炎(β -Dグルカン測定、バクタ内服)
- ・薬剤性間質性肺炎(メトレキサート)

間質性肺炎

- ・リウマチに伴う間質性肺炎の発症リスク
 - 喫煙、男性、高齢
 - 喫煙は、メトレキサートの効果を減弱させる

- ・リウマチ治療で最も多く使用される、メトレキサートによる間質性肺炎(急速に進行)
 - 早期発見が重要・・・
 - 呼吸のえらさや乾いた咳に注意
 - 酸素濃度測定など・・・

気管支拡張症



気管支拡張症

- ・肺炎にかかりやすい
→肺炎球菌ワクチン・インフルエンザなどの
予防接種が重要
- ・拡張した気道病変は、非結核性抗酸菌症の
好発部位になる（人には感染しないが、じわじ
わと重症化することもありうる・・・生物学的製剤
の投与時に問題になることがある・・・）

ニューモシチス肺炎

- ▶ 常在菌であるため、無症状のキャリアーがある
- ▶ 飛沫感染する
- ▶ 院内に広がる可能性もある
- ▶ 空咳、呼吸困難に注意

早期発見：酸素濃度、 β -Dグルカン測定、
予防投与として、バクタ 1錠を内服

⑤神経系（末梢神経障害、手根管症候群、レイノー現象）

手足のしびれ感や冷感
（血流障害や神経の圧迫による）

レイノー現象：

手の指先が蒼白⇒暗紫色⇒発赤に変化する現象

⑥リンパ節（反応性リンパ節腫脹）

- ・関節リウマチに合併するリンパ節腫大、
悪性リンパ腫

- ・メトレキサート（MTX）関連リンパ増殖症
（医原性免疫不全症関連リンパ増殖性疾患）

MTX治療中に発熱，寝汗，体重減少，リンパ節腫大，肝脾腫などを認めた場合本症を疑う。

→MTX中止により改善する
（EBウイルスの関与？、悪性リンパ腫へ移行・・・）

⑦皮膚(リウマトイド結節、皮膚潰瘍)

・リウマトイド結節

→皮膚の下にできる1~2cmほどのしこり、圧迫を受けやすい肘、膝、踵などにできやすい。

・足などに皮膚潰瘍

→悪性関節リウマチの可能性

・帯状疱疹

→治療薬による影響、早期治療が重要

⑧腎臓、腸管、心臓、肝臓 (アミロイドーシス、間質性腎炎)

・アミロイド(異常蛋白)が腎臓、腸管、心臓に沈着すると、腎機能の低下、難治性下痢や吸収不良、不整脈、心不全の原因になる。

・薬剤性腎障害(痛み止めなど・・・)

・B型肝炎(HBs抗原、さらに微量なウイルスが問題)

・メトレキサートによる肝障害(葉酸で予防)

⑨骨（骨粗しょう症）

- ・腫れのある関節周囲の骨粗鬆症と、
全身性の骨粗鬆症がある

- ・全身性の骨粗鬆症の原因は・・・

炎症性サイトカインが骨を溶かす破骨細胞と関連

関節の腫れや痛みにより、運動が不足

治療で用いられる、ステロイドによる副作用

⑩血液(貧血)

慢性炎症により、鉄分がうまく利用されないためにおこる貧血

→鉄剤の内服では改善しない

→リウマチの炎症を抑えることが重要